

平成29年度第1回長浜市地域公共交通会議 議事録

日 時	平成29年5月29日（月）15：30～17：00
場 所	長浜市役所3階 特別会議室
出席者	<p>出席：石井委員、道久委員、芝委員、速水委員、清水委員、田邊委員、佐々木委員、木下和良委員、中川委員、饗場委員、野村委員、木下重樹委員、北川委員、小山委員、脇坂委員、赤井委員、岸田委員、土田委員</p> <p>欠席：北詰委員、濱田委員、古川委員、立川委員（以上4人）</p> <p>傍聴者：4名</p> <p>事務局：米澤都市建設部長 都市計画課 嶋田課長、山岡室長、河瀬主査、水上主査 （湖国バス(株)：大西長浜営業所長）</p>
(司会)	開会
(市長)	(開会あいさつ)
(司会)	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございました。それでは議事に入ります。 ・会議の議長につきましては、会議規則第5条第2項によりまして、会長が議長となります。藤井会長に会議の進行をお願いします。
(議長)	<ul style="list-style-type: none"> ・規則に基づき、議長を務めさせていただきます。委員の皆様には議事のスムーズな進行にご協力賜わりますようお願いいたします。 ・それでは、次第に沿って進めてまいりたいと思います。本日は報告事項6件、協議事項が2件となっております。 ・まず、報告事項6件のうち報告事項1～4まで、事務局より説明願います。
(事務局)	(事務局議案説明)
(議長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ今の説明について、ご意見・ご質問はございませんか。
(委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・1点目に報告事項1で根拠法令として「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」とありますが、資料についておりませんので、是非見せていただきたいと思います。2点目に2ページの平成28年度バス運行実績で市補助額が2億3,487万円とありますが、これが市単独の補助額なのかということ、3点目に報告事項3にありますノンステップバスの導入について、米原市の負担額はいくらかということ、4点目に報告事項4のなかで行政出前講座の実施についてありましたが、参加者からどのような意見が出されたのかということについて、5点目に参考資料4ページで路線ごとの走行車両数が書いてありますが、これについては経費の観点から減らせる余地があるのか、教えてください。
(事務局)	<ul style="list-style-type: none"> ・1点目につきましては、本日の参考資料には含めておりませんでした。ご確認いただけるように準備いたします。 2点目の市単独の補助額がいくらなのかということですが、市補助額2億3,487万円に対して、県から市に対して4,181万円の補助を受けております

ことから、市単独の補助額としては、約1億9千万円ほどということになります。

3点目のご質問として、ノンステップバスの米原市の負担額についてですが、車両購入費が1台約1,600万円となっております。長浜米原供用路線の運行事業者である湖国バス(株)の車両については、国庫補助対象となっており、710千円を差し引いたうえで、長浜市米原市の負担は走行キロ按分となっております。米原市負担額は約3割となることから、400万円ほどとなります。

次に4点目ですが、参加者の方からもいくつかご意見をいただきまして、例えば「路線バスが無くなるとは困る人がいる以上は、行政サービスとして続けてもらいたい。廃止しないでほしい。」というご意見や、参加された方の多くはバスを利用されていないという状況のなかで、利用者数が伸び悩んでいるのは、バスの利用の仕方、便利な乗り方、路線によっては予約の仕方などをご存じない方が多いのではないかとということで、市としても利用方法をもっと情報発信すべきではないかとのことのご意見もいただきました。

最後に5点目ですが、走行車両数については、各路線で実際に運行させている車両台数となります。例えば木之本米原線が3台とありますが、ここは運行距離が長い路線で往路に1時間、復路に1時間かかるということから、2台で運行となりますと2~3時間に1便程度となることから、現在の便数を維持するために3台必要という考え方がありますが、こういった部分の考え方も含めて後ほど説明いたします「長浜市地域公共交通網形成計画」の策定に向けて、その作業として実態調査などをするなかで、こういった運行形態が望ましいのかという検討を加えていきたいと考えております。

(委員) ・市の財源が右肩上がりではないなかで、やっぱり経営状況が厳しいのであれば、市民がある程度納得できる対策を講じる必要があると思いますし、場合によっては借金してまで取り組んでいかなければならないこともあると思います。地域の実情という見方は大事ですが、ある程度、本数を調整するという考え方は必要だと思います。「誰も乗っていないバスが走っている。あの経費は誰が払っているのか？市民の税金で走っているならもったいないことをしないでほしい。」という話を耳にすることもあります。そういうことから、路線の見直しについては、しっかりと考えてもらいたいと思います。

(委員) ・今日は長浜市役所へ向かう際に、米原駅から木之本米原線のバスに乗ってきました。途中、市立長浜病院や平方町の停留所等で乗り降りされた利用者の方を見かけましたし、1時間1本の便が確保されていて、地域に必要な非常に良い路線だなという感じを受けました。
1点質問をさせていただきます。平成28年度の運行実績のなかで、デマンドタクシーや西浅井交通ネットワーク線など、利用者数が伸びた路線がいくつかありますが、この要因はどういったところにあると考えておられるか教えてください。

(事務局) ・デマンドタクシーについては、制度自体が徐々に地域に定着してきていると感じております。登録者数の伸びとともに利用者数自体の伸びにも繋がっていると考えております。また、近年、放課後児童クラブへの移動のために子どもさんが利用されているケースも出てきておりまして、その点でも利用者数増になってきていると見ております。
西浅井地域に関しましては、実証運行というかたちで、地域の方と意見を交わしながら平成27・28年とそれぞれ7月にダイヤ改正をまいりました

ので、その効果もあるかと考えております。

(委員) ・今ほどは利用者が伸びている点のお話がありましたが、一方で路線バスについては高齢化がすすんでバスが必要な人が増えているはずなのに、減っているというのが現実なのかなと思います。いろいろと努力をしていただいているところですが、ある程度この方式としての限界ではあるのかなと感じます。そのなかでも、高月観音号とびわこ線・小谷山線は収支率が5%に満たないということで、普通ありえない状況になっているのかなと思います。さきほどは車両数を減らすという意見もありましたが、長浜市では地域によってはデマンドタクシーが信用を受けて利用者が増えているということであれば、この2地域は平地で集落が散在していることを考えると、公共交通網形成計画の策定を待つというよりも、昨年度から今年度にかけて地域の方々と話すなかでデマンドタクシーへの転換について議論をしていただくといった動きもあったかもしれませんので、そのあたりの市の考えについて教えてください。

(事務局) ・事務局としまして、当該路線の収支率が低迷していることは課題として考えておまして、さきほど出前講座の報告もさせていただきましたが、それとは別に地域づくり協議会や連合自治会との意見交換会を行い、地域の方と課題の共有もさせていただきました。また、後ほど報告いたしますが、小谷地域につきましては、アンケートも実施させていただいております。実際に、今後その改善策をどうしていくかということになりますが、公共交通網形成計画の策定を待たずしてというご意見もありますが、利用実態をふまえ、地域の方々としっかりと意見を交わしながら、交通体系の見直しを図っていきたいと考えております。

(議長) ・その他何かございますか。ないようですので、報告事項を終わります。次に協議事項に入ります。本日の協議事項は2件です。それでは事務局から説明願います。

(事務局) (事務局議案説明)

(議長) ・ただ今の説明について、ご意見・ご質問はございませんか。

(委員) ・このダイヤ改正は駅でのJRとの接続は考慮されておりますでしょうか？

(事務局) ・可能な範囲でJRとの接続ができるようなダイヤになっております。

(議長) ・その他何かございますか。ないようですので、協議事項1について、これを承認することに異議はございませんか。
異議なしのお声をいただきましたので、本件については協議が調ったものいたします。
続きまして、協議事項2について事務局から説明願います。

(事務局) (事務局議案説明)

(議長) ・ただ今の説明について、ご意見・ご質問はございませんか。

(委員) ・さきほどの報告事項の質疑にもありましたが、高月観音号とびわこ線・小谷

山線の収支状況は目に余るものがあり、さすがに英断を下す時期に差し掛かっているのではないかと考えます。例えば高月・湖北で共有した路線として見直すとか、ある程度思い切った政策を打ち立てて、5年間の計画に反映してもらいたいと思います。

(事務局) ・現在の利用者数は少ない状況でございますが、その利用者の方への配慮という点は大事だと考えておりますので、実態調査において現状把握を行うと同時に地域の声をお聞きするなかで公共交通網の見直しを図っていきたくて考えております。

(委員) ・さきほどからびわこ線・小谷山線のご意見がでておりますが、湖北町の住民としましては、やはり利用者にとっては大切な交通手段であると思っております。最近では高齢者の事故が多発するなかで、運転免許を返納する方が増えておりますので、バスは残していくべきものだと思いますが、市民の意識改革も必要だと思います。一人ひとりが利用してバスを残していくんだという気概が大切ではないかと思ひますし、行政や事業者の方々の努力で利用しやすいようにしていただくこととともに、利用者側も将来残していくために利用しようという考えを持つことが求められていると感じます。

(事務局) ・貴重なご意見をありがとうございます。本日、追加資料とさせていただいた広報ながはまのコピーをご欄いただきたいと思います。「路線バスをみんなで守りましょう」ということで、特に普段バスを利用されていない方にも路線バスの現状も含めて、存続していくことが非常に困難な状況であることを知っていただくために、行政としてお知らせしていく役目がありますし、公共交通網形成計画の説明でも申しましたが、将来を考えた時に次の世代にバスを残していかなければならないということもあります。そういうなかで、行政と事業者様とで意見を交わしながら利用しやすいものにしていく必要もありますし、一方で利用者様側としましては、マイカー社会にあるなかで、例えばこの日は自家用車の利用を控えて公共交通を利用しようという動きも、バスを存続するための一つの取組だと思ひますので、行政としてそのような働きかけをしつつ、事業者様、市民の皆様と一緒に取組むことも、この計画に盛り込んでいきたいと考えております。

(委員) ・平成28年度運行実績のなかで市と県の補助額の説明があつて、ものすごい金額だと思いますけれども、さきほどのご意見で市民としても利用の機会を増やすことがこの補助金額を減らすことになるというお話もありましたが、事業者の関わり方はどうなのかなと思ひまして、この補助の制度がバス事業者の努力に関わらず赤字分を単純に補填するだけであれば、事業者側の努力に繋がらないと感じます。市民も努力して、行政も努力してというなかに事業者側も努力しなければとなるようなもの、何かインセンティブになるような制度があれば良いのではと感じました。

(事務局) ・全国的には事業者様側のいわゆる営業努力に対するインセンティブになるような補助制度をつくられているところもお聞きしております。その内容等も情報収集するなかで、研究していきたいと思ひます。

(委員) ・路線によっては10人乗りのワゴンタイプのバス車両があるかと思ひますが、今のご意見をふまえると通勤・通学の時間帯は大勢が乗車できる車両で運行

する場合にインセンティブがあると良いのではと思いました。そうすることで、通勤・通学の利用者も増えるのではないのでしょうか。

(事務局) ・通学のためのバスに関しましては、公共交通網形成計画策定に向けて、庁内の関係課協議ということで、教育委員会の担当課とも通学・通園バスというテーマで話していきたいと考えています。そのなかで、子どもたち・学生にとってどのような移動手段が良いのかということも検討したいと考えております。

(委員) ・市の財政負担が毎年2億円ほどという状況が続いていて、なかなか状況が改善してこないというなかで、最近全国的には住民が主体となって、運転手も住民がやって地域で支えあいながら移動手段を地域で確保しているという取組も増えておりますが、地域の潜在能力を生かすという意味でも、コミュニティバス等の公共交通だけが住民の移動手段ということだけでなく、もう少し柔軟な考え方も見出していく必要もあるかと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局) ・さきほどの事業者努力へのインセンティブになる制度と同様に、全国事例を研究してまいりたいと思います。また市内では、西浅井交通ネットワークにつきましては、住民が運営主体となった会社で運行いただいている路線ということでもありますので、今後、運行の新たな担い手ということについても検討を重ねてまいります。
今年度、滋賀県の新たな施策として「地域協働交通社会実験」という事業もお聞きしております。長浜市としてもこれを活用した取組ができるかということも含めて検討を進めてまいります。

(議長) ・その他何かございますか。ないようですので、協議事項2について、これを承認することに異議はございませんか。
異議なしのお声をいただきましたので、本件については協議が調ったものいたします。

これをもちまして、本日の議事はすべて終了いたしました。せつかくの機会ですので、委員の皆様から何かご発言があればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(委員) ・いろいろなご意見をお聞きしますと、やっぱり財政ありきであると、財源がなければできませんので、悲観的な意見ばかり言ってはいけませんが、合理的な方法というものを見つけて取り組むことが大事だと感じます。国の政策にも関わるようでしたら、それなりの財政支援も考えてもらいたいと思いますし、車両購入補助にわずかの補助だけでは地方の実情に見合っていない、県からは一定の補助金があるということですが、ほとんどが市単独の財源となっている現状のなかで、何とか財源があるうちはいいですが、今後続けていくことができるのか、市の取り組み方・考え方にかかっていると思います。

(議長) ・今おっしゃっていただいたような課題への解決策は、市が単独で決めるのではなく、この地域公共交通会議で決めていくという、そのような位置づけの場がありますので、今後ともいろいろとご意見いただきますようよろしくお願い致します。

(議長) ・本日用意しておりました議事のすべてを終了いたします。委員の皆様におかれましては、慎重なご協議を賜り、ありがとうございました。これにて議長を終えまして、進行を事務局に返します。

(司会) 藤井会長、議事を進行いただきありがとうございました。
また、委員の皆さまにおかれましては、慎重に協議いただきましたことを厚くお礼申し上げます。
閉会にあたりまして、長浜市都市建設部長の米澤よりご挨拶申し上げます。

(部長) (閉会の挨拶)

(司会) それでは、これで平成 29 年度第 1 回長浜市地域公共交通会議を閉会いたします。本日は、ありがとうございました。

(終了)